

## ほっとカフェサロン

### 「大地震の教訓は生かされたのか」を話し合い

2月26日のほっとカフェサロンは、10人が参加して「大地震の教訓は生かされたのか」をテーマに話し合いを行いました。

#### （司会）

阪神神戸大震災から29年、東北大大震災から13年が経ちました。

今年1月の能登半島大地震では、倒壊が7万戸、震災後2か月もたつのに水道が出ず、まだ体育館などで生活を続けている人がたくさんいます。

#### （熊本地震の体験者の方）

断層の上にある家が倒壊してしまった。余震が酷かったので、避難した体育館も天井が落ちる可能性があり、市役所内に避難した。支援物資の提供は避難所によってかなり違っていた。届いた支援物資も人手が無いので仕分けができず、配布できない状態だった。一番困ったのはトイレと水で、近くに井戸があったので助かった。道路が寸断され、遠くから助けも行かれず、近所同士の助け合いで生活をつなぐことができた。

#### （元東京都職員の方）

日本は豊かな経済大国でありながら、被災すると今でも体育館に雑魚寝するような避難生活が当たり前のように行われている。しかし、ヨーロッパでは、ベッドを備蓄し、日常の食事を用意しようとしている。（添付論文参照下さい）

地震が当たり前の国、政府が簡易ベッド等を備蓄するなど災害時対応をシステム化をすべきだ。地域任せ、統率のとれないバラバラな対応で、国のやる気が疑われる。雑魚寝より段ボールベッドの方がましたが、ヨーロッパと比較するとこれで良いのか。首都直下地震が起きた時、上下水道、電気は想定通りの期間で回復できるか、疑問が残る。

#### （自治会関係者）

防災拠点に段ボールベッドは6個、しかも置き場所がない。段ボールベッドも無いところもある。

この辺りは、地盤が良く、家も新しいので安心している人が多いが、電気、水道、下水が長期間使えなくなる可能性があることを知っておくべきだ。

#### （司会）

被災時には自助、共助、公助があり、阪神淡路大地震では、倒壊した家の下敷きになった人の8割が、近所の人に助けられたと言われており、自分で防災、被災に備えるほか、皆で助け合うことも必要ですね。

**（マンションにお住まいの方）**

マンション自治会では、被災時に「大丈夫」のマークをドアに貼ることになっている。大地震後に自治会参加率が向上したが、全体的に災害の切迫感が薄くなっているような気がする。長い間、電気、水が止ったら、大変だ。

**（終わりに）**

日本は地震が当たり前の国です。それを前提に、国、地方自治体、市民も真剣に考える必要があることが良く分かりました。被災時は自分で対応しなければいけないことが多いですが、皆さん、準備していますか。